

第2回 (仮称) 「道の駅かみのかわ」基本構想・基本計画策定懇談会 資料

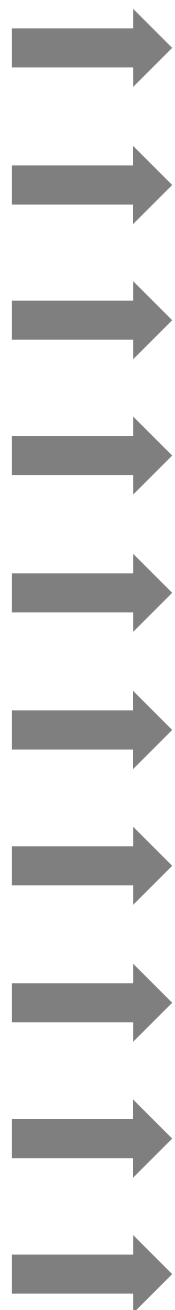
1. 前回会議のご意見とそれに対する対応方針	1
2. 懇談会の予定議題と今回会議の主な議題	2
3. 道の駅の概要	3
4. 道の駅に求められる導入機能	4
5. コンセプト・導入機能 (案)	7
6. 導入機能 (案) イメージ	8
参考資料	10

1. 前回会議のご意見とそれに対する対応方針

主なご意見

ご意見に対する対応方針

- ① 農業振興を達成する道の駅としてほしい。
- ② 農業分野における高齢化や担い手不足の問題を解決する道の駅としてほしい。
- ③ 女性農業者の意見も聞きながら、農産物を販売するだけでなく、加工品製造など面白い取り組みを実施できれば良い。
- ④ インターパークとの連携ができると良い。
- ⑤ 上三川町には日産自動車の栃木工場があるため、日産自動車と連携できると良い。
- ⑥ 上三川町内に波及効果があると良い。
- ⑦ 地域の意見を取り入れられる道の駅になると良い。
- ⑧ 上三川町に住んでいる人が素晴らしい道の駅があると思うことができる施設を検討するべきである。
- ⑨ イベント会場があると良い。
- ⑩ 宿泊施設があると良い。



- 物販機能や飲食機能等で達成されると考えられる農業従事者の収益向上に加え、農業の問題解決や振興に資する導入機能を有する道の駅とします。
- 情報発信、バス運行、イベント開催など、インターパークとの連携手法について検討します。
- 日産自動車と協議を行い、連携を検討します。
- 可能な限り多くの住民の方が道の駅との関わり合いが持てるように、関係人口増加のための導入機能を有する道の駅とします。
- 今後の検討課題とし、本懇談会を含めた各種会議体で議論することとします。

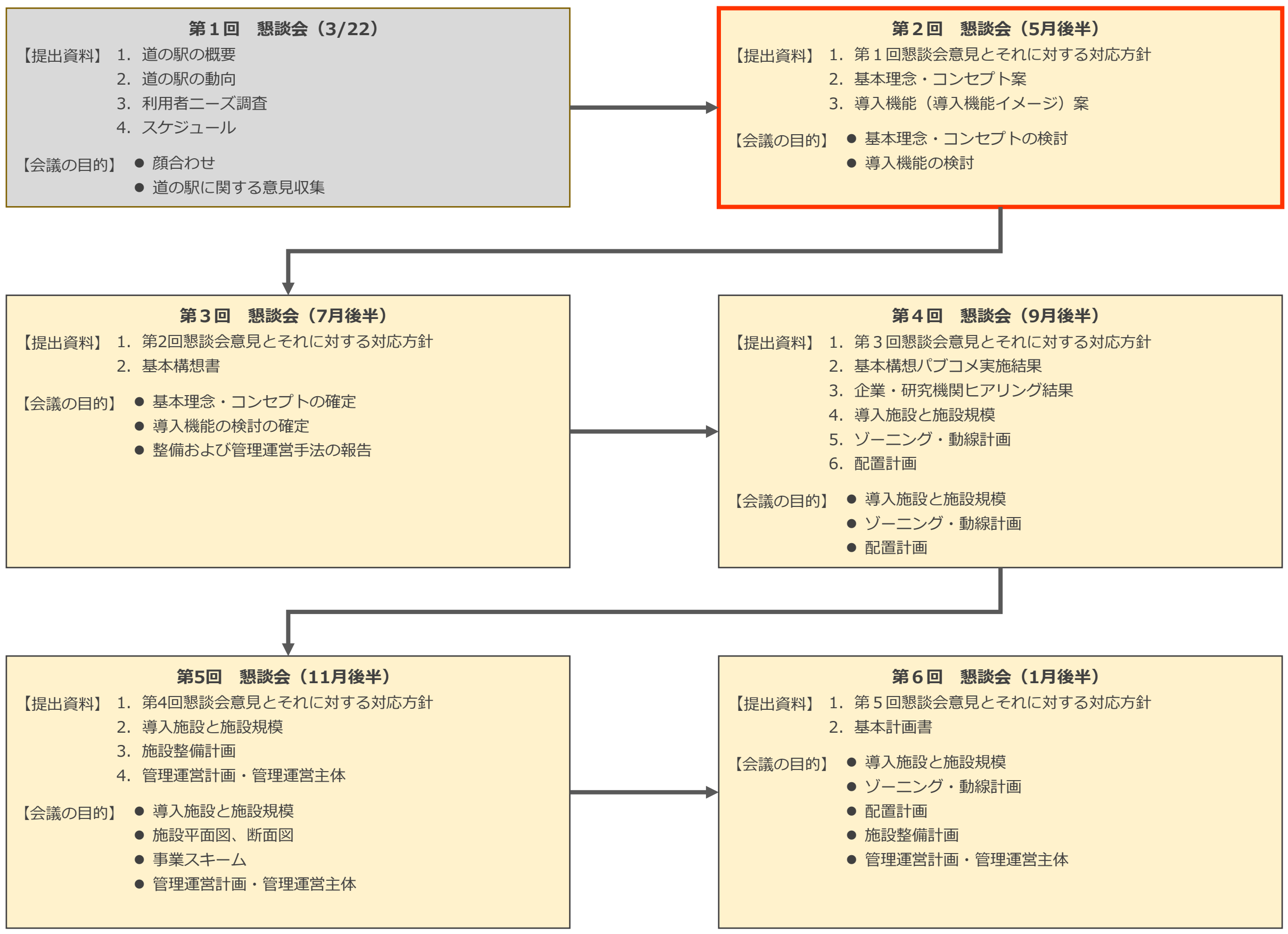
農業

連携・波及効果

導入機能



2. 懇談会の予定議題と今回会議の主な議題



3. 道の駅の概要

3-1. 道の駅とは？

長距離ドライブが増え、女性や高齢者のドライバーが増加するなかで、道路交通の円滑な「ながれ」を支えるため、一般道路にも安心して自由に立ち寄り、利用できる快適な休憩のための「たまり」空間が求められています。

また、人々の価値観の多様化により、個性的でおもしろい空間が望まれており、これら休憩施設では、沿道地域の文化、歴史、名所、特産物などの情報を活用し多様で個性豊かなサービスを提供することかできます。

さらに、これらの休憩施設が個性豊かなにぎわいのある空間となることにより、地域の核が形成され、活力ある地域づくりや道を介した地域連携が促進されるなどの効果も期待されます。

こうしたことを背景として、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、そして「道の駅」をきっかけに町と町とが手を結び活力ある地域づくりを共に行うための「地域の連携機能」、の3つの機能を併せ持つ休憩施設「道の駅」が誕生しました。

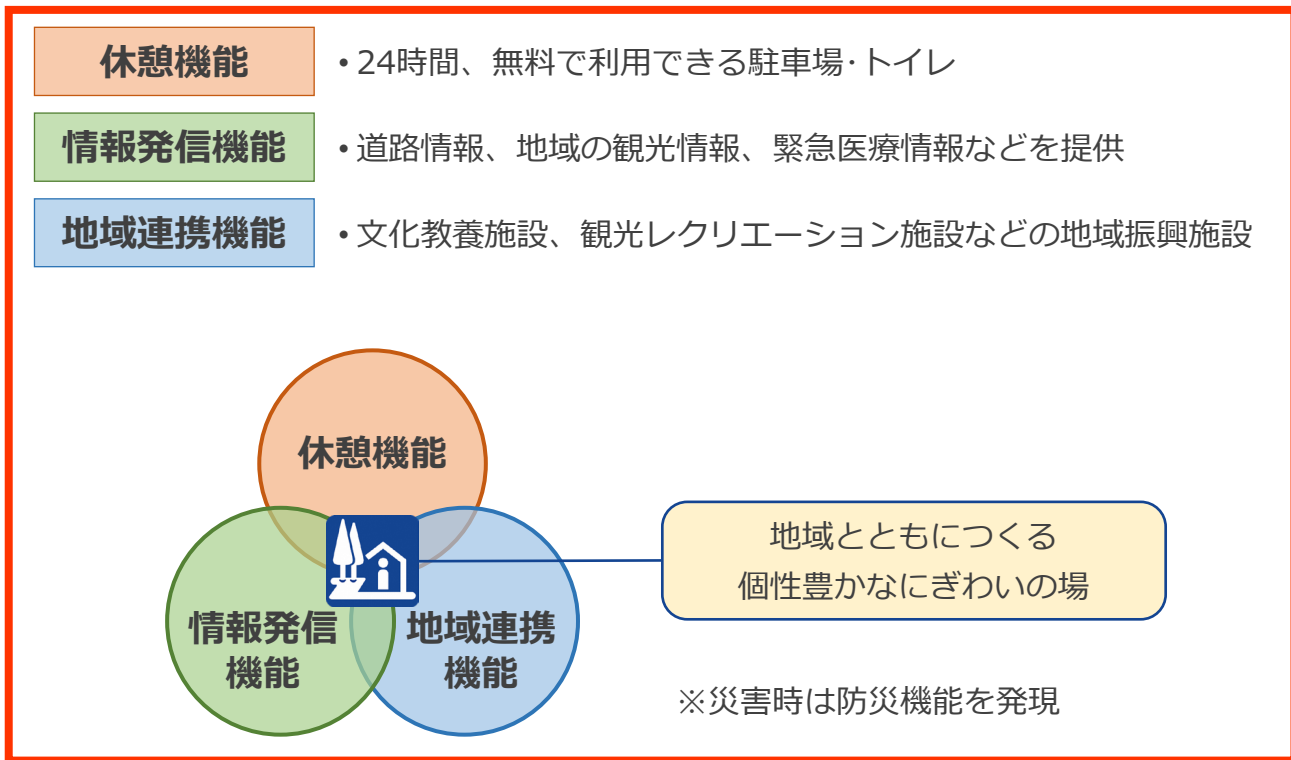
出典：国土交通省、「道の駅案内」<https://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/outline.html>

3-2. 道の駅の目的と機能

5-2-1. 目的

- 道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- 地域の振興に寄与

5-2-2. 基本コンセプト

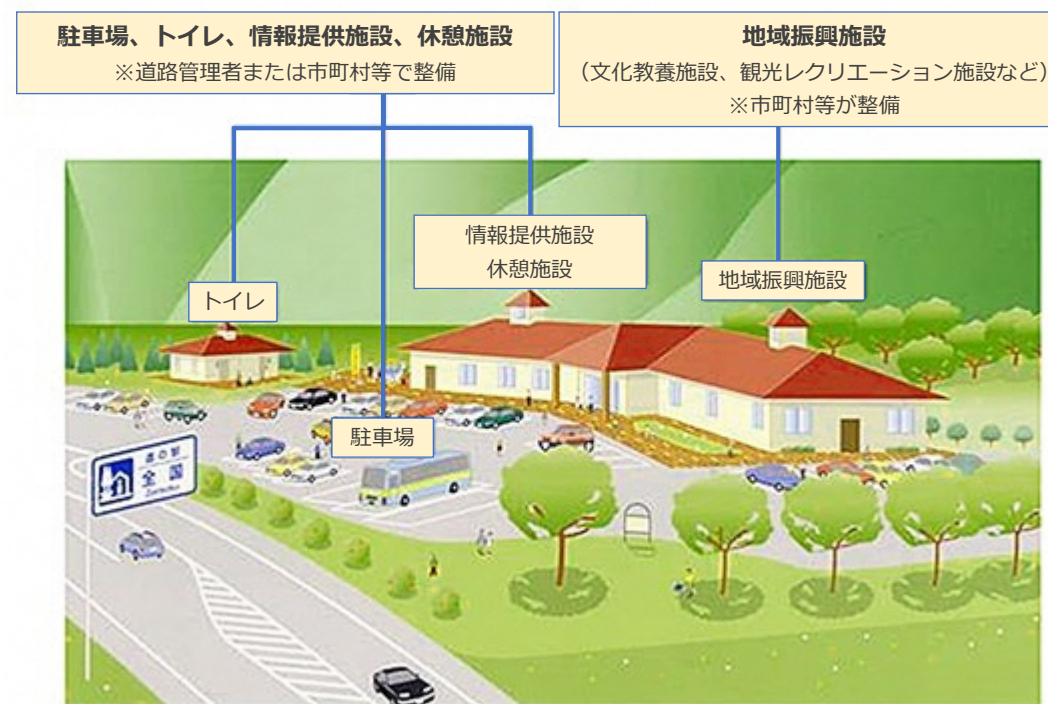


出典：国土交通省、「道の駅案内」<https://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/outline.html>

3-3. 道の駅の設置者と施設配置

道の駅の施設は道路管理者と市町村等が整備する施設の2種で構成される**一体型道の駅**、市町村等が整備する施設のみで構成される**単独型道の駅**があります。

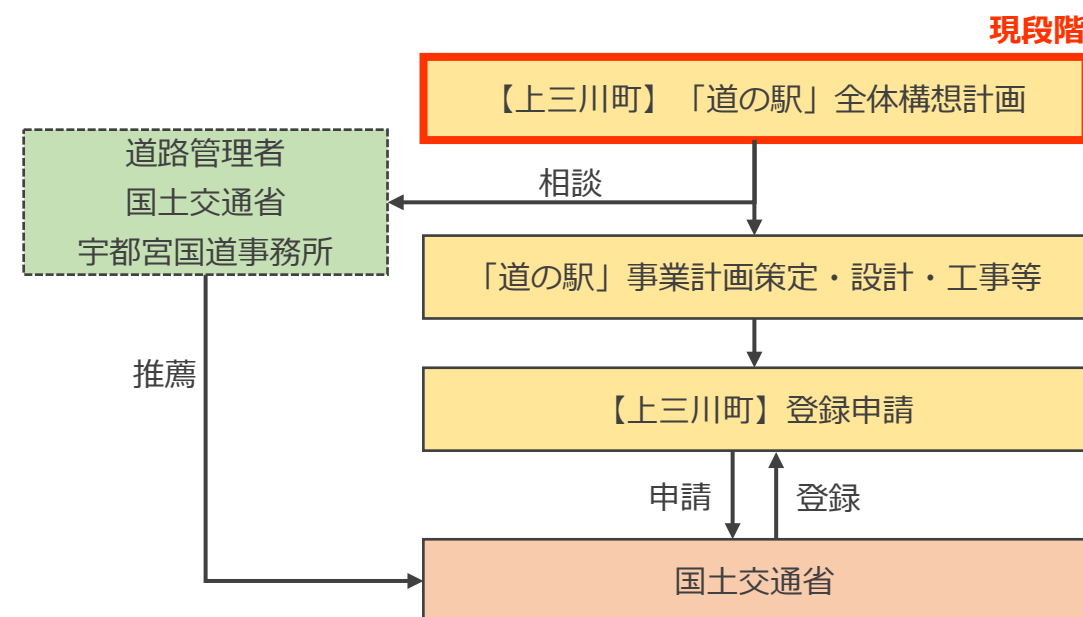
施設の整備主体イメージは下図の通りです。



出典：国土交通省、「道の駅案内」<https://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/outline.html>

3-4. 道の駅整備まで

道の駅の整備までのフローは下図の通りです。整備までは上三川町が全体構想計画、事業計画・設計等を実施し、道路管理者である国土交通省 宇都宮国道事務所の推薦のもと、国土交通省に登録を申請します。



4. 上三川町の道の駅に求められる導入機能

4-1. 上三川町の現状から導く導入機能

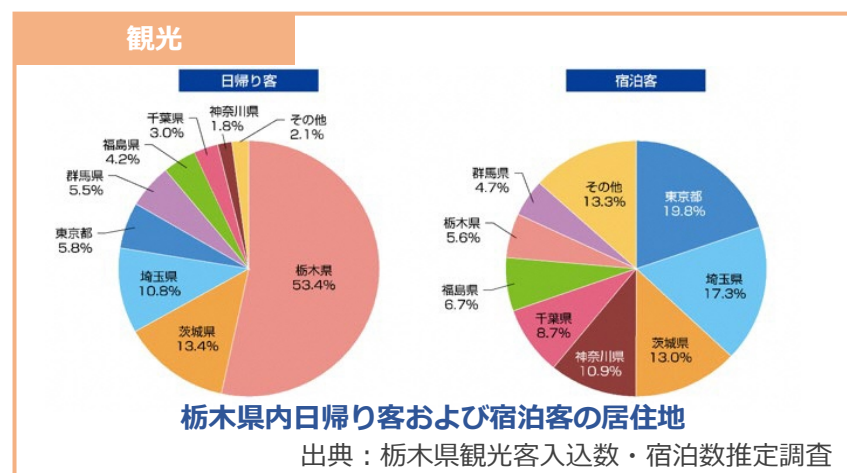
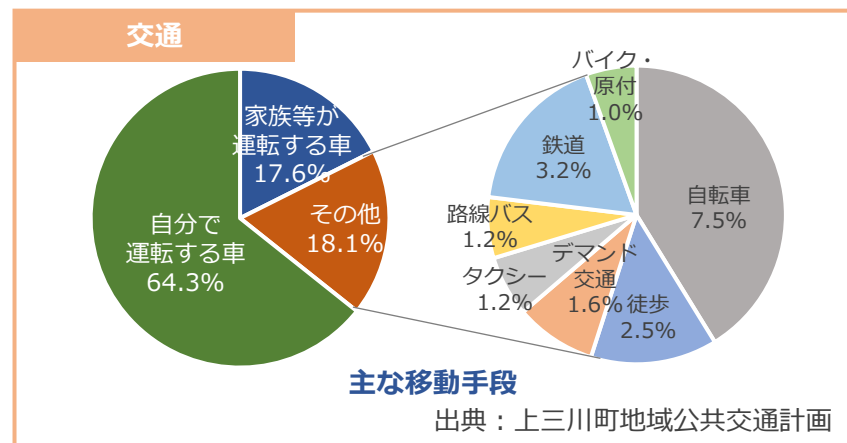
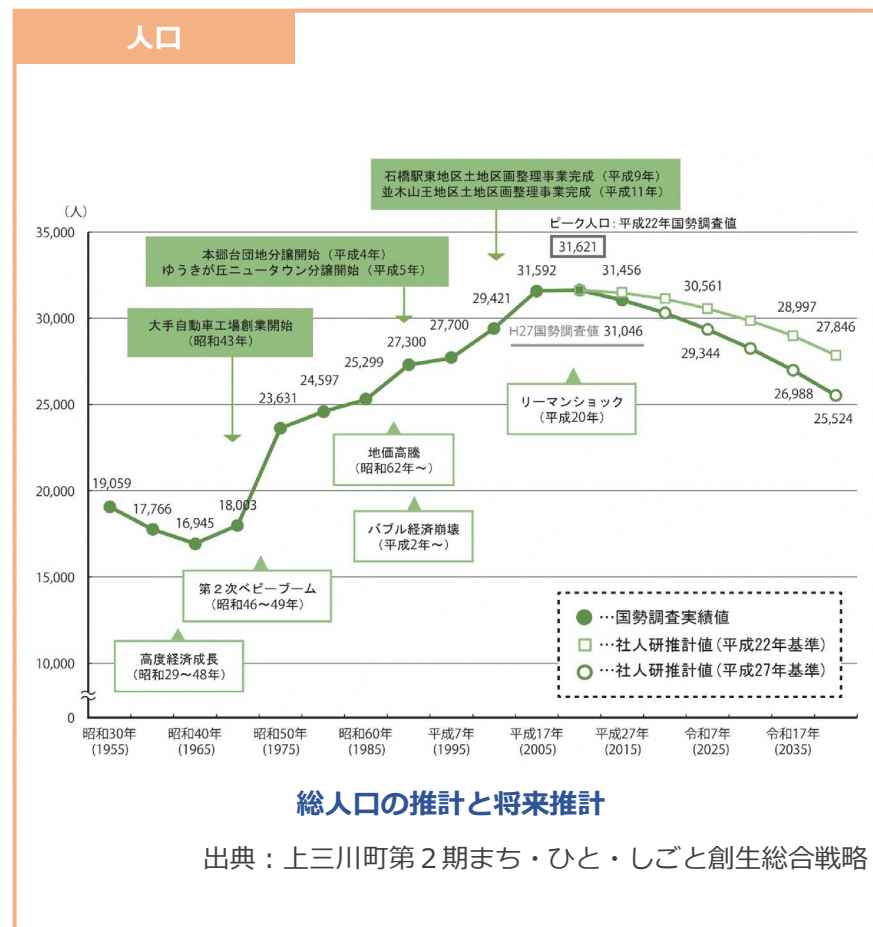
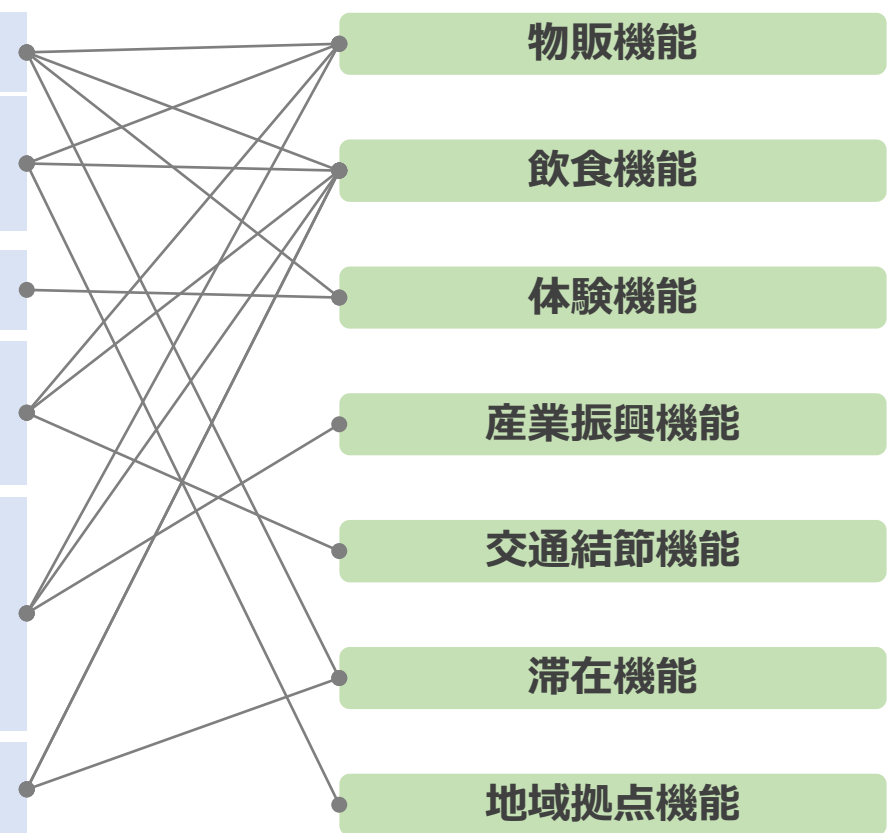
上三川町の現状

地勢・位置	・首都東京からは北に90kmで、 県都宇都宮市 と隣接している
人口	・H22年31,621人をピークに 減少に転じている ・男性・女性とも20~39歳の東京圏（一都三県）などへの 転出が多い
歴史・沿革	・古墳や折り紙など多くの歴史や文化財がある
交通	・町内を 全国にアクセスが可能な北関東自動車道 が横断し、 首都圏から東北までを結ぶ新4号国道 が縦断する ・自家用車に比べ 公共交通機関を利用する割合は低い
産業	・日産自動車栃木工場が立地し、 製造業の中でも自動車産業が盛ん に行われている ・首都圏に位置する地理的優位性を活かしたイチゴ、ニラ、トマト等の施設園芸が盛んであり、 多様な野菜が生産 されている
観光	・栃木県内の観光客宿泊数は観光客入込数の1割未満であり、 滞在時間が比較的短い

求められる役割

→	・首都東京及び宇都宮市からの集客に資する役割が求められる
→	・上三川町に 住み続けたいと思える環境づくり に資する役割が求められる
→	・上三川町の歴史や文化を活かした、 他ではできない体験 ができる役割が求められる
→	・ 広域からの集客 する役割が求められる
→	・公共交通を補填する 新たなモビリティ を導入する役割が求められる
→	・自動車産業や農業などの 産業の活性化 に資する役割が求められる
→	・観光客の上三川町での 滞在時間を長く する役割が求められる

導かれる導入機能



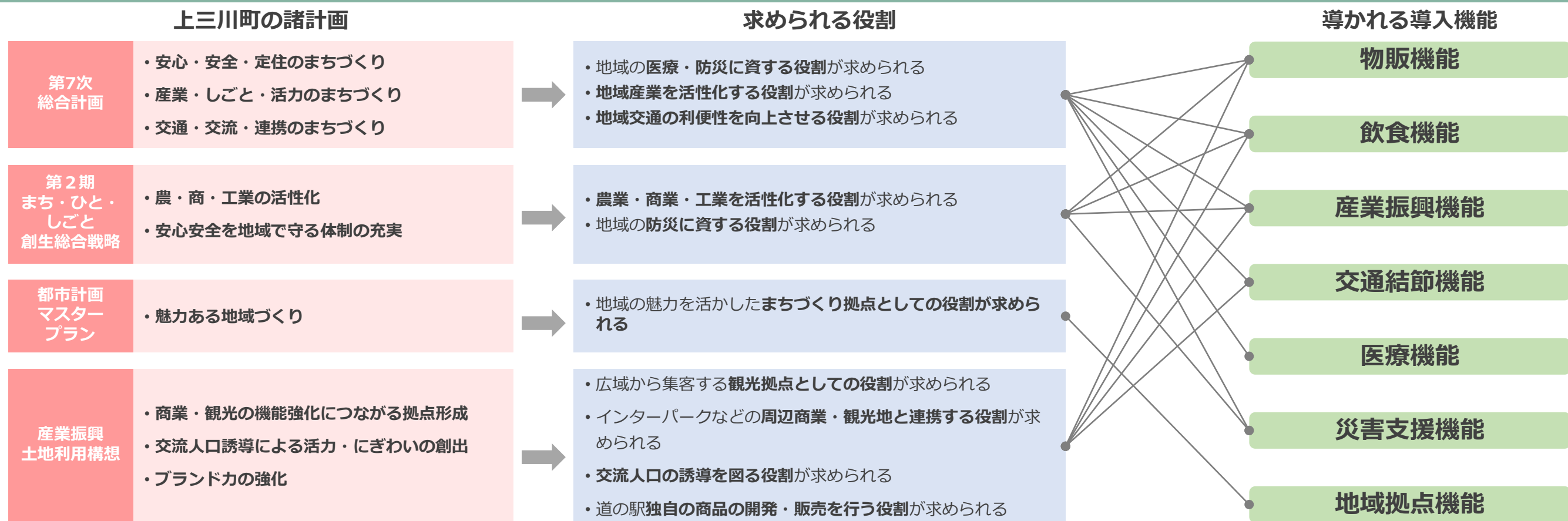
産業

	常住地ベース		従業地ベース	
	人	構成比%	人	構成比%
A_農業、林業	1,294	8.3%	1,292	7.9%
うち農業	1,291	8.2%	1,290	7.8%
B_漁業	5	0.0%	2	0.0%
C_鉱業、採石業、砂利採取業	3	0.0%	1	0.0%
D_建設業	980	6.3%	948	5.8%
E_製造業	4,402	28.1%	6,362	38.7%
F_電気・ガス・熱供給・水道業	40	0.3%	48	0.3%
G_情報通信業	133	0.8%	41	0.2%
H_運輸業、郵便業	962	6.1%	1,422	8.6%
I_卸売業、小売業	2,077	13.2%	1,973	12.0%
J_金融業、保険業	203	1.3%	78	0.5%
K_不動産業、物品賃貸業	153	1.0%	93	0.6%
L_学術研究、専門・技術サービス業	502	3.2%	320	1.9%
M_宿泊業、飲食サービス業	696	4.4%	471	2.9%
N_生活関連サービス業、娯楽業	437	2.8%	274	1.7%
O_教育、学習支援業	553	3.5%	483	2.9%
P_医療、福祉	1,650	10.5%	1,229	7.5%
Q_複合サービス事業	108	0.7%	45	0.3%
R_サービス業（他に分類されないもの）	779	5.0%	814	5.0%
S_公務（他に分類されるものを除く）	416	2.7%	278	1.7%
T_分類不能の産業	287	1.8%	270	1.6%
Q_総数	15,680	100.0%	16,444	100.0%

産業大分類別の就業者数
出典：上三川町産業振興土地利用構想

4. 上三川町の道の駅に求められる導入機能

4-2. 上三川町の諸計画から導く導入機能



第7次総合計画

① “安心安全・定住”のまちづくり

町民のさらなる安心安全な暮らしを確保するため、本町の災害に強い特性を踏まえながら、地域防災力の強化や雨水対策などに努めるとともに、定住の場としての機能強化に向けた、秩序ある土地利用に基づく快適な居住環境の形成を目指します。

② “子ども・健康・福祉”のまちづくり

若い世代が多く住む本町の特徴を維持するため、県内でも有数の子どもを産み育てやすい環境の充実を図り、地域と連携した特色ある学校教育の展開に努めるとともに、徐々に進行しつつある少子高齢化社会を見据え、誰もが健康で、住み慣れた地域に暮らし続けることのできる環境づくりを目指します。

③ “産業・しごと・活力”のまちづくり

製造業を主体とした就業の場としての環境を維持するとともに、本町のさらなる活力や若い世代の雇用確保につながる産業機能強化に向け、北関東自動車道・新4号国道が交差する立地優位性を最大限に活かした新たな産業・流通機能等の導入を目指します。

さらに、首都圏に近い地理的優位性や本町の風土を活かした美味しい農産物の供給体制や地域に密着した商店街の振興を図り、活力ある産業づくりを目指します。

④ “交通・交流・連携”のまちづくり

機能的な道路網の形成や便利な公共交通機関の充実により、誰もが容易に移動できる環境を整えとともに、友好都市をはじめとした周辺市町との交流・連携を強化し、本町の魅力や暮らしやすさを更に高める環境づくりを目指します。

上三川町第7次総合計画より抜粋

第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略

基本目標1 安心して働き、稼げる“かみのかわ”の実現

基本的方向(1) 農・商・工業の活性化の推進
基本的方向(2) 雇用機会創出の推進

基本目標2 魅力ある“かみのかわ”への新しい流れの創出

基本的方向(1) 移住・定住支援の充実
基本的方向(2) 町の魅力アップの推進

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び教育環境の充実

基本的方向(1) 出会いから結婚・出産・子育て支援の推進
基本的方向(2) 人間力を豊かにする教育の推進

基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり

基本的方向(1) 安心安全を地域で守る体制の充実
基本的方向(2) 誰もがいきいき生活できる支援の充実

上三川町第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略より抜粋

都市計画マスタープラン

計画のテーマ “安心安全・定住”のまちをめざして 安全・活力・交流の定住都市 上三川

まちづくりの方向性

- 新たな都市機能育成・強化 地方移住を促す都市構造の構築、北関東自動車道等の広域ネットワークを活かした物流や産業支援機能。
- 活力ある土地利用の展開 定住人口の居住拠点、流入人口への都市サービス拠点、農業・工業・商業・観光等の機能の活性化及び充実。
- 定住環境の向上 都市の基盤整備、防災機能を確保した安全な定住環境、コンパクトシティによる暮らしやすい市街地形成。
- 生活ネットワークの構築 円滑な交通処理と交通利便性の向上、生活・産業・防災などを支援するネットワーク環境の充実。
- 産業環境の充実 農業・工業・商業の振興、観光・レクリエーション機能の充実。
- 魅力ある地域づくり 地域の魅力を活かしたまちづくりの促進、地域のみなさんの参加・交流による活性化。
- 地域資源の保全・活用 自然環境や歴史・文化資源などの活用、景観や生活文化などの保全と創出。

上三川町都市計画マスタープランより抜粋

産業振興土地利用構想

次代の上三川のまちづくりを牽引する 広域・地域に開かれた活力と賑わいの複合拠点の形成

《基本方針1》 商業・観光の機能強化につながる拠点形成

- 6次産業の展開など地域経済の好循環を生む拠点形成を図る。
- 広域交通ネットワークやインターパーク等周辺拠点との連携により交流人口拡大を図る。
- 商業・観光等の複合的な導入機能での雇用創出の場とする。

《基本方針2》 交流人口誘導による活力・にぎわいの創出

- 交通網や既存拠点と連携した多くの来訪者・交流人口の誘導を図る。
- 広域都市連携、来訪者と地域の多様な交流等の相乗効果により町の魅力・活力の発信源とする。
- 来訪者・地域住民等の多様な主体の参画による持続的な活動の場とする。

《基本方針3》 ブランド力の強化

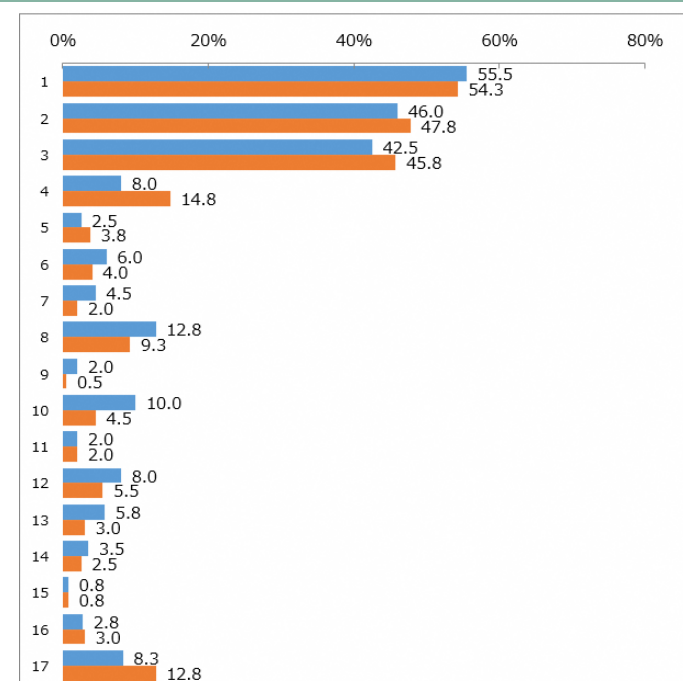
- 広域に上三川の魅力を発信する拠点形成を図る。
- 上三川の良質な地場産品や人・資源等を活かしたソフト事業を仕掛ける拠点とし、「上三川産」としてのブランド力向上を図る。
- 次代の取組により道の駅自体のブランド化を図る。

上三川町産業振興土地利用構想より抜粋

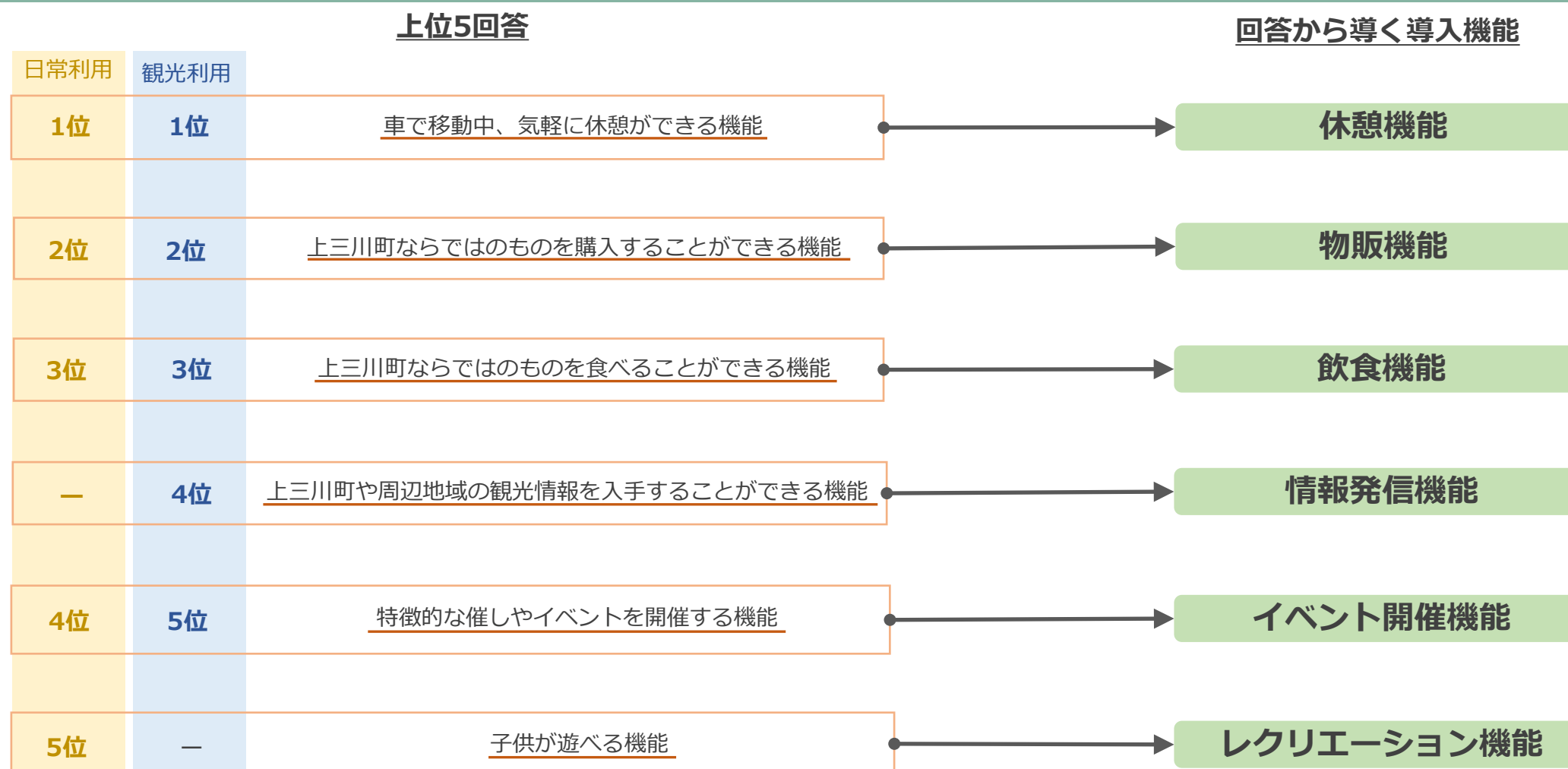
4. 上三川町の道の駅に求められる導入機能

4-3. 「WEBアンケート」調査結果

		日常利用想定 (%)	観光利用想定 (%)
1	車で移動中、気軽に休憩ができる機能	55.5	54.3
2	上三川町ならではのものを購入することができる機能	46.0	47.8
3	上三川町ならではのものを食べることができる機能	42.5	45.8
4	上三川町や周辺地域の観光情報を入手することができる機能	8.0	14.8
5	上三川町周辺の道路情報を入手することができる機能	2.5	3.8
6	上三川町の産業に触れることができる機能	6.0	4.0
7	地域住民と観光客が交流できる機能	4.5	2.0
8	特徴的な催しやイベントを開催する機能	12.8	9.3
9	子育てを支援する機能	2.0	0.5
10	子供が遊べる機能	10.0	4.5
11	上三川町の産業を体験する機能	2.0	2.0
12	バリアフリー機能(高齢者などにやさしい機能)	8.0	5.5
13	防災機能	5.8	3.0
14	最先端の環境に配慮した機能	3.5	2.5
15	上三川町への移住・定住を促進するような機能	0.8	0.8
16	その他	2.8	3.0
17	求める機能はない	8.3	12.8



4-4. 「WEBアンケート」から導く導入機能



5. コンセプト・導入機能（案）

5-1. 整備コンセプトと基本方針（案）



コンセプト（案）

ORIGAMIステーション かみのかわ

- ▲ **折り紙**という正方形の紙が多様な姿に変化するように、上三川町の産業が、住民の暮らしを豊かにし、地域の魅力となるような道の駅を目指します
- ▲ **ORIGAMI**を世界共通語とした上三川町の偉人の意思を語り継ぎ、世界に向けた交流機会を育む道の駅を目指します
- ▲ 国籍・年齢・性別・障がいの有無などを問わず、誰もが親しみ楽しむ**ORIGAMI**のように、全ての人が親しみ楽しむ道の駅を目指します
- ▲ 上三川町では**ORIGAMI**を通して、「誰一人取り残さない」まちづくりを目指しており、その推進拠点となる道の駅を目指します

基本方針 1 かみのかわの産業を発展する場

基本方針 2 かみのかわの暮らしを豊かにする場

基本方針 3 かみのかわの魅力を創造・発信する場



導入機能（案）

休憩機能

情報発信機能

物販機能

飲食機能

体験機能

産業振興機能

交通結節機能

イベント開催機能

レクリエーション機能

滞在機能

地域拠点機能

医療機能

災害支援機能

5-2. 導入機能（案）

休憩機能

機能イメージ

- 24時間車を駐車できる機能
- 24時間トイレを利用できる機能
- ベンチやテーブルで休憩できる機能

物販機能

機能イメージ

- 町や周辺地域の産物等を販売する機能
- 町や周辺地域の土産品等を販売する機能
- 日用品を販売する機能

体験機能

機能イメージ

- 農業や先端産業等の地域産業を体験する機能
- 他ではできない体験を提供する機能

交通結節機能

機能イメージ

- 公共交通と連携する機能
- 北関東自動車道と連携する機能
- 新たなモビリティと連携する機能

レクリエーション機能

機能イメージ

- 子どもが遊べる機能
- 観光客がBBQやグランピングを楽しめる機能
- ペットと一緒に楽しめる機能

地域拠点機能

機能イメージ

- 住民活動の拠点となる機能
- 大学と連携した活動・研究拠点となる機能
- 商品開発する機能

災害支援機能

機能イメージ

- 災害時の広域避難場所となる機能
- 災害に備え、物資等を保管する機能

情報発信機能

機能イメージ

- 町や周辺地域の観光情報を発信する機能
- 町の暮らしの情報を発信する機能
- 町の産業の情報や技術等を発信する機能

飲食機能

機能イメージ

- 町や周辺地域の産物等の料理を提供する機能
- 様々なニーズに対応した飲食を提供する機能

産業振興機能

機能イメージ

- 農産物を販売・加工する機能
- 地場産業の情報を発信する機能
- 地場産業と連携した取組を行う機能

イベント開催機能

機能イメージ

- 市民が日常的に道の駅を利用でき、市民交流や作品展示など多様な活動に寄与できる多目的広場機能

滞在機能

機能イメージ

- コンテナハウスやキャンプ等により宿泊できる機能
- 温浴等により旅の疲れを癒す機能

医療機能

機能イメージ

- 医薬品を販売する機能
- 災害時に医療拠点となる機能

6. 導入機能（案）イメージの事例

休憩機能

ベンチ



道の駅かさま
(茨城県笠間市)

トイレ



道の駅まくらがの里こが
(茨城県古河市)

飲食機能

レストラン（フルサービス）



道の駅ましこ
(栃木県益子町)

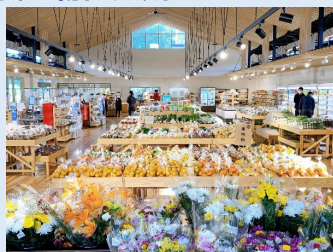
レストラン（セルフサービス）



道の駅壬生蘭々亭
(栃木県壬生町)

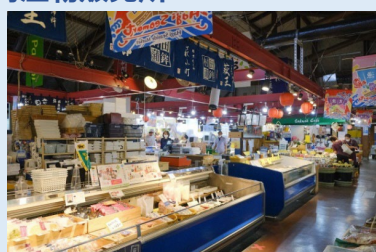
物販機能

農産物直売所



道の駅かさま
(茨城県笠間市)

海産物販売所



道の駅萩しーまーと
(山口県萩市)

コンビニエンスストア



道の駅まくらがの里こが
(茨城県古河市)

産業振興機能

農産物加工場



道の駅いまい恵みの里
(長野県松本市)

展示会



日産
ジャパンモビリティショー

体験機能

農業体験



道の駅やちよ
(千葉県八千代市)

市民農園



道の駅くりもと
(千葉県古香取市)

交通結節機能

タクシー乗り場



道の駅米沢
(山形県米沢市)

バス停



道の駅 あしよろ銀河ホール21
(北海道足寄郡)

情報発信機能

観光情報発信



道の駅かさま
(茨城県笠間市)

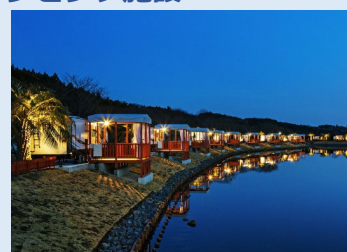
道路情報発信



道の駅季楽里あさひ
(千葉県旭市)

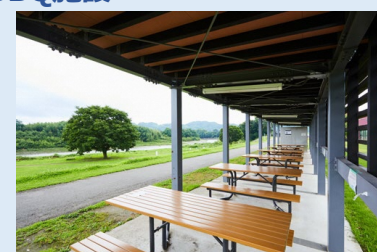
レクリエーション機能

グランピング施設



道の駅 たかねざわ元気あっぷむら
(栃木県高根沢町)

BBQ施設



道の駅 常陸大宮かわプラザ
(茨城県常陸大宮市)

6. 導入機能（案）イメージ

滞在機能

キャンプサイト



道の駅 しもべ
(山梨県身延町)

高付加価値テナ



道の駅 うきは
(福岡県うきは市)

温浴施設



道の駅 サンフラワー北竜
(北海道雨竜郡)

イベント開催機能

芝生広場



道の駅 あらい
(新潟県 妙高市)



名古屋ノリタケガーデン
(愛知県 名古屋市)

地域拠点機能

研修室・会議室



道の駅 開国下田みなと (静岡県下田市)

医療機能

コンビニエンスストアなどでの医薬品販売



診療所が隣接



道の駅 みまき
(長野県東御市)

災害支援機能

駐車場に整備された仮設住宅



道の駅クロス10十日町
(新潟県十日町市)

防災倉庫



道の駅しんよしとみ
(福岡県築上郡)

参考資料-1 上三川町の概要

参考資料-1 地勢・位置

上三川町は、関東平野の北部に位置し、首都東京からは北に90km、県都宇都宮市の南に隣接しています。

地形はほぼ平坦で標高約60~80m、東は真岡市との境に鬼怒川、中央に江川、やや西よりに田川がそれぞれ南流しており、広々とした田園地帯を形成しています。

町の広さは、南北10.5km、東西8.25km、面積は54.39km²となっており、町内全域が都市計画区域に指定されています。



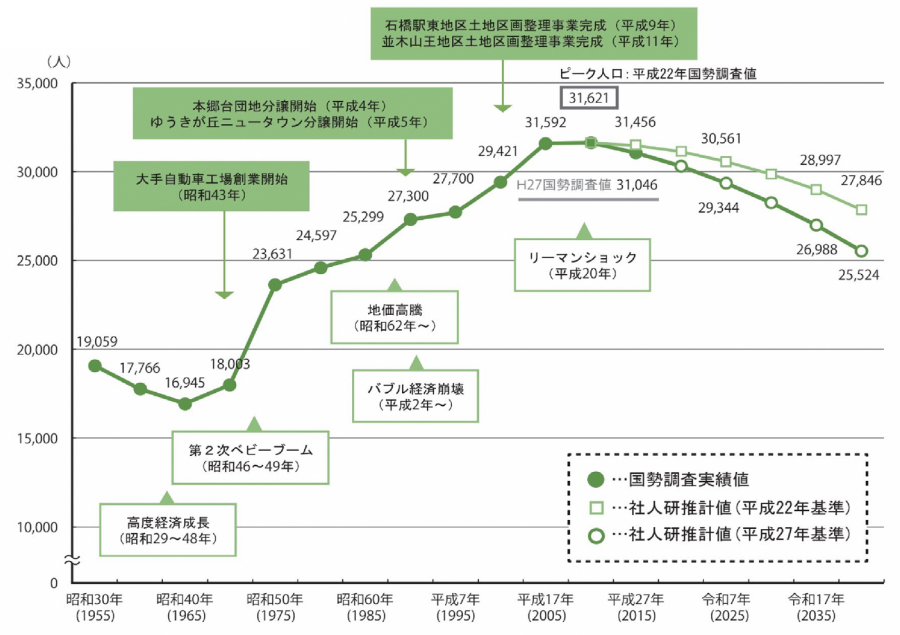
参考資料-2 人口

現在のの上三川町総人口は31,012人となっています。（令和6年1月1日時点）。

本町の総人口は、第2次ベビーブームや本町の大きな環境変化（日産自動車工場の操業、土地区画整理事業の実施など）を背景とした右肩上がりの傾向から、平成22年31,621人をピークに減少に転じています。

高齢化率（65歳以上）は、少子高齢化の進行に伴い上昇を続け、平成29年には21.6%となり、超高齢社会の水準である21%に達しました。合計特殊出生率は、近年は1.4前後で推移し、平成29年には1.45となり、全国・県の値とほぼ同様の値まで回復しています。

転入・転出の動きは、男性・女性とも20~39歳の県内他市町からの転入が多く、同様に、男性・女性とも20~39歳の東京圏（一都三県）などへの転出が多くなっています。



総人口の推計と将来推計
出典：上三川町第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年3月）

参考資料-3 歴史・沿革

上三川町には多くの歴史と文化財が残されており、現在、約600の遺跡と約200基の古墳があります。このように上三川町内に残る古墳は、上三川町で古来より多くの人々が生活を営んでいたということが分かります。

また、上三川町は、世界に“ORIGAMI”を広めた創作折り紙の第一人者・吉澤章先生の出身地です。国籍・年齢・性別・障がいの有無などを問わず、誰もが親しみ楽しむことができる「ORIGAMI」は上三川町のシンボルとなっています。



折り紙作品

古墳時代	弥生時代	縄文時代	旧石器時代	時代
10000-1000	1000-10000	10000-100000	100000-1000000	西暦
10000-1000	1000-10000	10000-100000	100000-1000000	西暦

平安時代	奈良時代	飛鳥時代	時代
710-1185	710-794	592-710	西暦
710-1185	710-794	592-710	西暦

安土桃山時代	室町時代	鎌倉時代	時代
1573-1603	1336-1573	1185-1333	西暦
1573-1603	1336-1573	1185-1333	西暦

明治時代以降	江戸時代	時代
1868-1912	1603-1868	西暦
1868-1912	1603-1868	西暦

上三川町の歴史年表

出典：平成27年 広報かみのかわ12月号

参考資料-4 交通

町の中央を南北に貫く新4号国道は、首都圏から東北までを結ぶ主要道路として昭和50年に一部完成し、平成25年に栃木県内が全線6車線化されました。また、町北部には北関東3県を東西に結び、東北自動車道などを経由し首都圏を始め全国にアクセスが可能な北関東自動車道が横断し、新4号国道と交差する宇都宮上三川ICが最寄りのICとなっています。

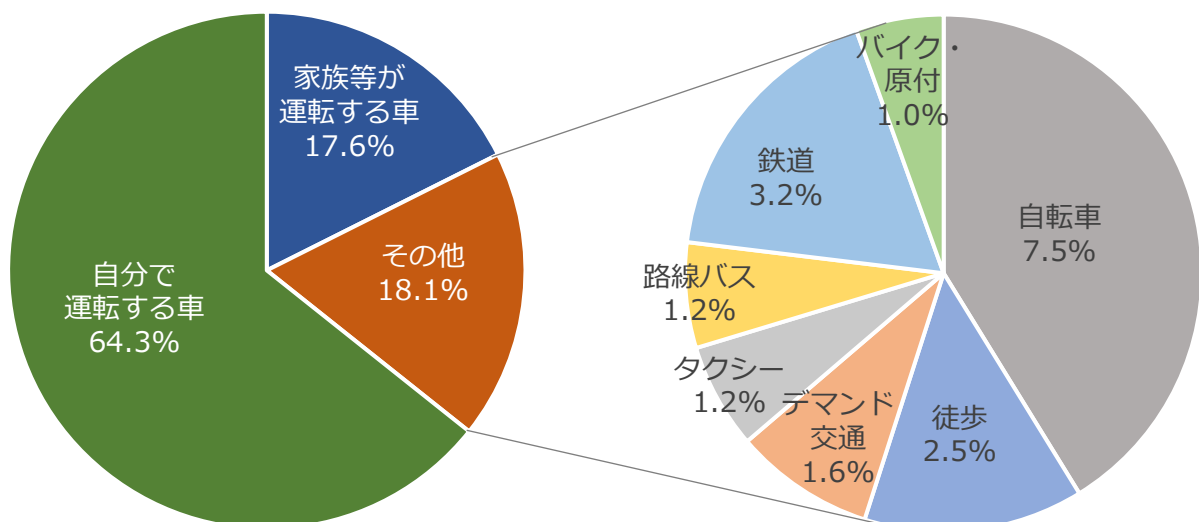
本町は、町内に鉄道駅を有していませんが、西部でJR東北本線（宇都宮線）石橋駅と接しています。



将来都市像

出典：上三川町都市計画マスタープラン（平成29年3月）

「上三川町地域公共交通アンケート調査」（平成30年2月）の結果によると、目的地に向かう際に自家用車（自分で運転する車、家族等が運転する車）を利用する割合は81.9%となり、移動には自家用車を最も利用していることがわかります。また、鉄道3.2%、路線バス1.2%、タクシー1.2%、デマンド交通1.6%で合計7.2%となり、自家用車に比べ公共交通機関を利用する割合は低いことがわかります。



主な移動手段 (アンケート結果)

出典：上三川町地域公共交通計画（平成30年8月）

参考資料-5 産業

令和2年国勢調査による産業大分類別就業者数を常住地・従業地でみると、「製造業」が最も多く、次いで「卸売業・小売業」、「医療・福祉」、「運輸業、郵便業」となっています。

「製造業」は、常住地・従業地ともに高い割合を示しており、特に従業地では約4割であることから本町の主要産業といえます。とくに、本町では日産自動車栃木工場が立地し、製造業の中でも自動車産業が盛んに行われています。

	常住地ベース		従業地ベース	
	人	構成比%	人	構成比%
A_農業、林業	1,294	8.3%	1,292	7.9%
うち農業	1,291	8.2%	1,290	7.8%
B_漁業	5	0.0%	2	0.0%
C_鉱業、採石業、砂利採取業	3	0.0%	1	0.0%
D_建設業	980	6.3%	948	5.8%
E_製造業	4,402	28.1%	6,362	38.7%
F_電気・ガス・熱供給・水道業	40	0.3%	48	0.3%
G_情報通信業	133	0.8%	41	0.2%
H_運輸業、郵便業	962	6.1%	1,422	8.6%
I_卸売業、小売業	2,077	13.2%	1,973	12.0%
J_金融業、保険業	203	1.3%	78	0.5%
K_不動産業、物品賃貸業	153	1.0%	93	0.6%
L_学術研究、専門・技術サービス業	502	3.2%	320	1.9%
M_宿泊業、飲食サービス業	696	4.4%	471	2.9%
N_生活関連サービス業、娯楽業	437	2.8%	274	1.7%
O_教育、学習支援業	553	3.5%	483	2.9%
P_医療、福祉	1,650	10.5%	1,229	7.5%
Q_複合サービス事業	108	0.7%	45	0.3%
R_サービス業（他に分類されないもの）	779	5.0%	814	5.0%
S_公務（他に分類されるものを除く）	416	2.7%	278	1.7%
T_分類不能の産業	287	1.8%	270	1.6%
O_総数	15,680	100.0%	16,444	100.0%

産業大分類別の就業者数

出典：上三川町産業振興土地利用構想（令和5年9月）

農業は、豊かな水系を活用した稲作のほか、首都圏に位置する地理的優位性を活かした施設園芸（イチゴ、ニラ、トマト等）が盛んであり、多様な野菜を生産しています。



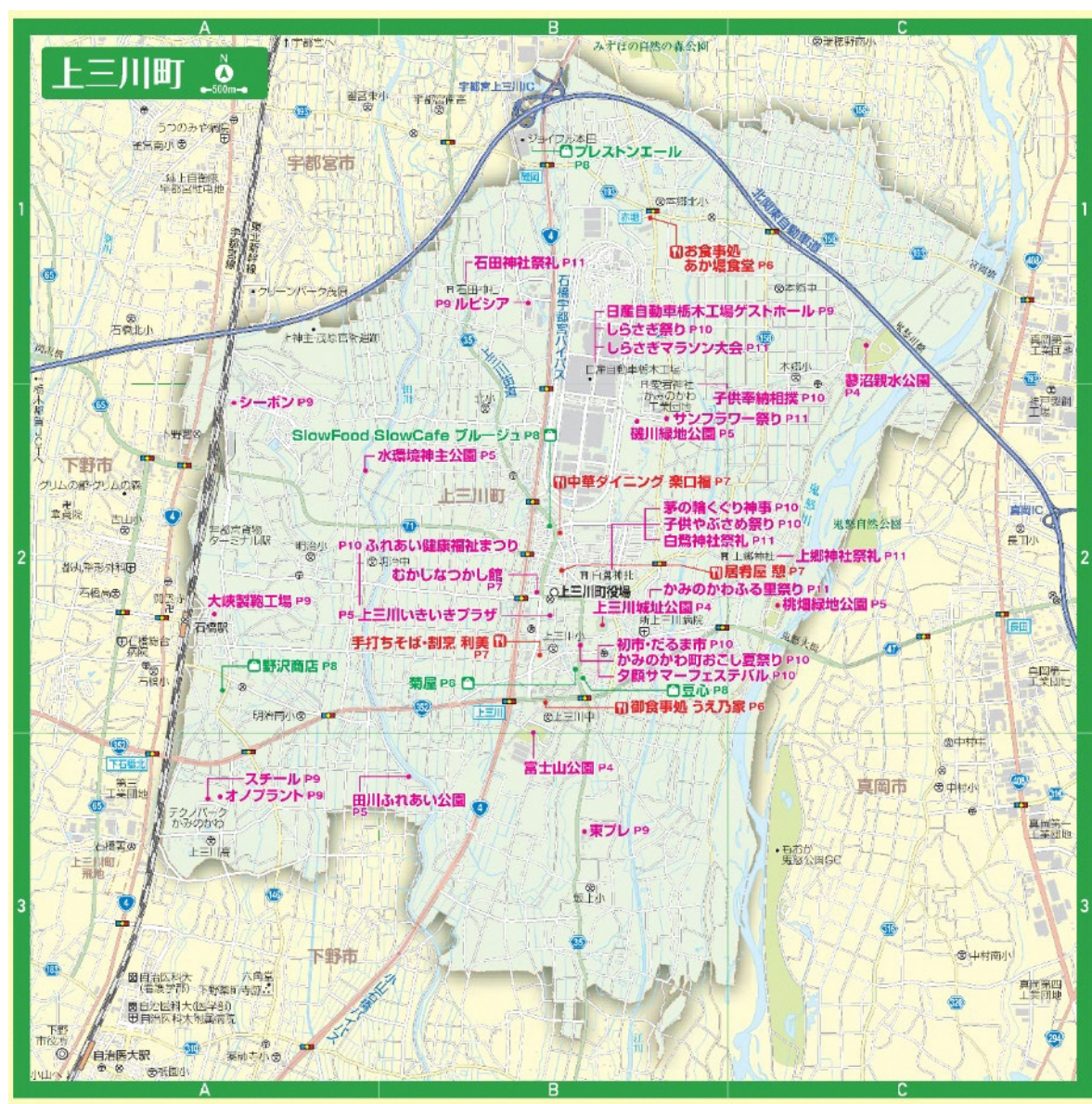
上三川町の農産物

参考資料-6 観光

上三川町は歴史があり、豊かな自然に囲まれているところが魅力の一つです。その魅力を活かした観光地やイベントが観光資源となっています。また、日産自動車等の産業、黒チャーハン等のご当地グルメも観光の魅力向上に貢献しています。

本町の中心市街地には、少なくとも 800 年以上の歴史があり日本一の平和の剣が奉納されている白鷺神社、国の有形文化財となっている生沼邸宅、350 年に渡り繁栄した上三川城の跡地を利用した城址公園など歴史のある建造物が徒歩圏内に点在しています。

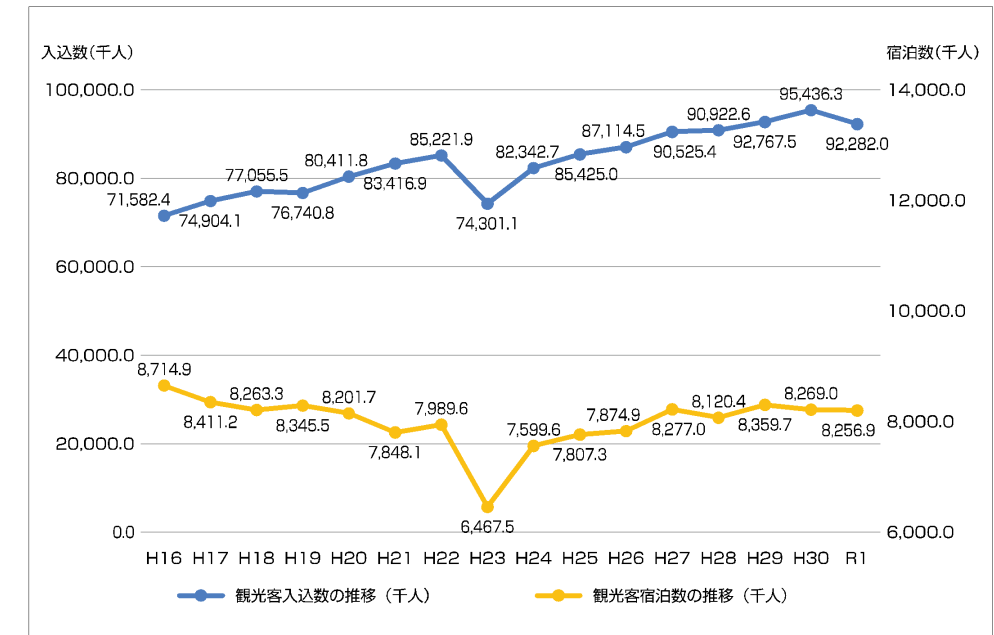
しかし、それらを紐づけて相乗効果を生むような事業がなく、地域資源を有効活用できていない実態があります。これらの資源と、点在するその他の地域資源を結び付けがなされていないため、観光客の誘致する力が弱く、観光客の滞在時間が短い傾向にあります。実際にこの中心市街地には昔ながらの商店街もありますが、人通りはまばらであり活気は見られず、閉店する店舗も後を絶たない状況が続いています。



上三川町の観光地

出典：るるぶ特別編集 上三川

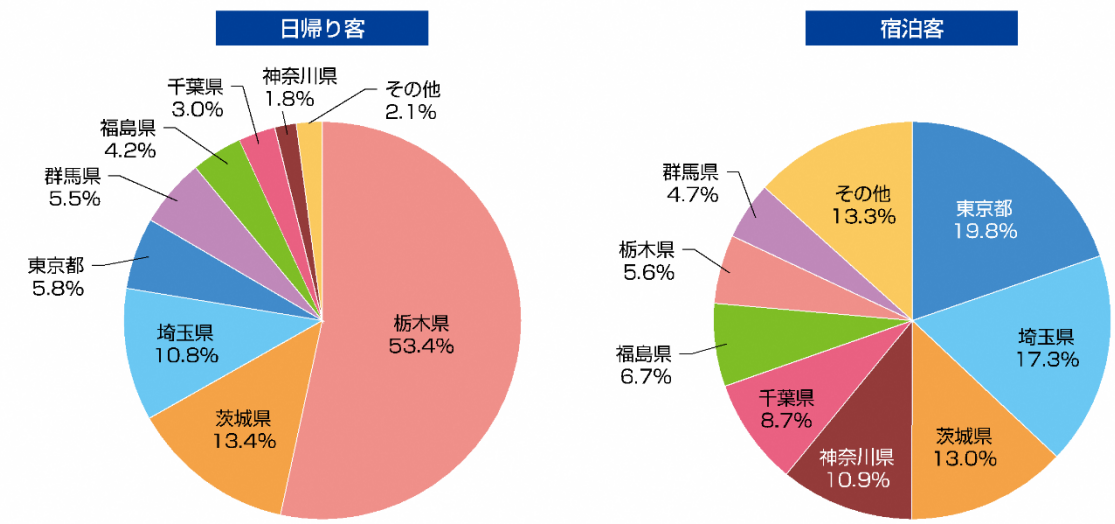
栃木県内では首都圏から日帰り傾向にあり、観光客宿泊数が観光客入込数の1割未満となっています。そのため、上三川町でも観光客は宿泊せず、滞在時間が比較的短いと考えられます。



栃木県内観光客入込数・宿泊数の推移

出典：栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査

栃木県観光における日帰り客の居住地は、「栃木県」が 53.4% で最も多く、次いで「茨城県」が 13.4%、「埼玉県」が 10.8% でした。 宿泊客の居住地は、「東京都」が 19.8% で最も多く、次いで「埼玉県」が 17.3%、「茨城県」が 13.0% でした。



栃木県内日帰り客および宿泊客の居住地

出典：栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査

上三川町第7次総合計画

上三川町第7次総合計画は、町の全ての行政活動の基本となる最上位の行政計画として、まちづくりの原則や町の将来像を実現するための道筋を示すものです。

基本理念

①“安心・安全”のまちづくり

子どもを産み育てやすい環境、子ども達が健やかに成長し学習できる環境、高齢者をはじめとする誰もがいきいきと暮らし続けることのできる環境を整えるとともに、のどかな自然・田園環境のなかで、利便性や快適性に優れた定住環境の充実、災害対策等の強化が図られた、安心・安全のまちづくりを進めます。

②“活力・交流”のまちづくり

広域交通基盤を有する立地特性を活かし、近隣住民の就業の場として、本町を象徴する自動車工業をはじめとした工業や、首都圏などの大市場に近接する立地条件及び本町の風土を活かした特色のある農業など、産業の集積を図るとともに、多くの人々が集い、地域間や世代間などの様々な活動が活発に展開される、活力・交流のまちづくりを進めます。

③“協働・自立”のまちづくり

本町を取り巻く環境の変化を捉え、地方分権の拡大等に伴う自治体独自の判断による施策を的確に実施するとともに、持続可能な行政サービスの推進に向け、行政と本町を支える町民・団体・企業などが連携するまちづくり体制の強化や継続的な行財政改革の取り組みによる、協働・自立のまちづくりを進めます。

町の将来像

【町の将来像】

共に創る 次代に輝く 安心・活力のまち 上三川

“共に創る”とは

本町の活発なまちづくり活動の主体として活躍する、様々なコミュニティやボランティア団体等との交流・連携を深め、継続的な取り組みを相互に支えながら実施していくことで、行政と町民が共に考え共に行動する、協働と参画のまちづくり環境が形成されます。

“次代に輝く”とは

本町の持続的な成長を図るための布石として、これまでの豊かさを支えてきた自然や産業、住環境など、地域の宝ともいえる様々な資源を磨き上げることで、まちづくりの効果が次世代において発現し、いつまでも住み続けることのできる魅力にあふれた環境が形成されます。

“安心・活力のまち”とは

定住の場・就業の場としての本町の性格を基本としつつ、人口減少の抑制や町民の暮らしに対する満足度の向上が図られるよう、高齢化への対応や子育ての支援、災害対策、しごとの場の確保などに取り組むことで、誰もが安心して暮らすことのできる活力に満ちた環境が形成されます。

基本計画の体系

基本計画の体系

基本目標

施策項目

1

“安心安全・定住”のまちづくり

- 1. 消防・防災体制の充実
- 2. 交通安全・防犯体制の充実
- 3. 調和のとれた土地利用の推進
- 4. 市街地の整備
- 5. 住宅施策の充実
- 6. 上・下水道の整備

-子ども・子育て支援-

- 1. 子育て支援の充実
- 2. 学校教育の充実

-健康・福祉-

- 3. 社会福祉体制の充実
- 4. 高齢者支援の充実
- 5. 障がい者支援の充実
- 6. 健康づくり・医療体制の充実

3

“産業・しごと・活力”のまちづくり

- 1. 農業の振興
- 2. 商業の振興
- 3. 工業の振興
- 4. 消費者対策の充実

4

“交通・交流・連携”のまちづくり

- 1. 道路・交通網の整備
- 2. 国際化、地域間交流の推進
- 3. 観光・レクリエーションの振興

5

“人・文化・スポーツ”のまちづくり

- 1. 生涯学習の充実
- 2. 青少年の健全育成
- 3. 芸術・文化の振興
- 4. スポーツの振興

6

“自然・環境”のまちづくり

- 1. 公園・緑地・水辺空間の整備
- 2. 環境衛生の充実
- 3. 環境・景観の保全と創造

7

“コミュニティ・地域力”のまちづくり

- 1. コミュニティ活動の推進
- 2. 男女共同参画社会の形成
- 3. 人権尊重社会の実現

8

“協働・健全財政”のまちづくり

- 1. 町民と行政との協働体制の確立
- 2. 情報ネットワークの推進
- 3. 自立した自治体経営の確立

上三川町第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略

上三川町第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略は、人口減少・少子高齢化の課題への対策となる取組のために策定されたものです。

基本目標と基本的方向

基本目標1 安心して働き、稼げる“かみのかわ”の実現

基本的方向(1) 農・商・工業の活性化の推進

基本的方向(2) 雇用機会創出の推進

基本目標2 魅力ある“かみのかわ”への新しい流れの創出

基本的方向(1) 移住・定住支援の充実

基本的方向(2) 町の魅力アップの推進

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び教育環境の充実

基本的方向(1) 出会いから結婚・出産・子育て支援の推進

基本的方向(2) 人間力を豊かにする教育の推進

基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり

基本的方向(1) 安心安全を地域で守る体制の充実

基本的方向(2) 誰もがいきいき生活できる支援の充実

上三川町都市計画マスタープラン

上三川町都市計画マスタープランは上三川町のあるべき姿を再構築し、土地利用・市街地整備・都市基盤施設・景観形成・環境保全等に関する総合的なまちづくりの方針を示すものです。

まちづくりの基本方針

計画のテーマ	“安心安全・定住”のまちをめざして 安全・活力・交流の定住都市 上三川
新たな都市機能育成・強化	地方移住を促す都市構造の構築、北関東自動車道等の広域ネットワークを活かした物流や産業支援機能。
活力ある土地利用の展開	定住人口の居住拠点、流入人口への都市サービス拠点、農業・工業・商業・観光等の機能の活性化及び充実。
定住環境の向上	都市の基盤整備、防災機能を確保した安全な定住環境、コンパクトシティによる暮らしやすい市街地形成。
生活ネットワークの構築	円滑な交通処理と交通利便性の向上、生活・産業・防災などを支援するネットワーク環境の充実。
産業環境の充実	農業・工業・商業の振興、観光・レクリエーション機能の充実。
魅力ある地域づくり	地域の魅力を活かしたまちづくりの促進、地域のみなさんの参加・交流による活性化。
地域資源の保全・活用	自然環境や歴史・文化資源などの活用、景観や生活文化などの保全と創出。

将来都市像



上三川町産業振興土地利用構想

上三川町産業振興土地利用構想は総合計画における重点事業として位置付けている活力あるまちづくりのための産業・交流拠点形成について、事業の具体化に向けた候補地の抽出・評価、優先度の高い地区の選定、土地利用構想作成を行うものです。

工業系土地利用の方向性

持続可能な都市経営・まちづくりにつながる
広域連携の中で輝く上三川の工業拠点の形成

《基本方針1》

産業集積・連携の相乗効果をもたらす拠点形成

- ・町内の工業集積と周辺の工業拠点等との連携・相乗効果により町の工業力の強化につながる拠点形成を目指す。
- ・円滑な事業推進と企業誘致により製造品出荷額等の生産力の向上につながる拠点形成を目指す。

《基本方針2》

上三川の将来の産業構造を誘導する拠点形成

- ・特定業種に特化した町の工業構造を活かすとともに、持続可能な発展に向けたバランスの取れた業種の誘導を図る。
- ・ICや宇都宮に至近という立地特性を活かし、広域連携の中で存在感を示す新しい工業拠点をめざす。

《基本方針3》

持続可能なまちづくりにつながる拠点形成

- ・第1次・第3次産業との連携等により産業全体の持続可能性を高める。
- ・雇用創出による就業者増や就業者の町内への定住促進など、他部門との連携による人口増、定住促進等の効果を得られる拠点形成を図る。

商業系土地利用の方向性

次代の上三川のまちづくりを牽引する
広域・地域に開かれた活力と賑わいの複合拠点の形成

《基本方針1》

商業・観光の機能強化につながる拠点形成

- ・6次産業の展開など地域経済の好循環を生む拠点形成を図る。
- ・広域交通ネットワークやインターパーク等周辺拠点との連携により交流人口拡大を図る。
- ・商業・観光等の複合的な導入機能での雇用創出の場とする。

《基本方針2》

交流人口誘導による活力・にぎわいの創出

- ・交通網や既存拠点と連携した多くの来訪者・交流人口の誘導を図る。
- ・広域都市連携、来訪者と地域の多様な交流等の相乗効果により町の魅力・活力の発信源とする。
- ・来訪者・地域住民等の多様な主体の参画による持続的な活動の場とする。

《基本方針3》

ブランド力の強化

- ・広域に上三川の魅力を発信する拠点形成を図る。
- ・上三川の良質な地場産品や人・資源等を活かしたソフト事業を仕掛ける拠点とし、「上三川産」としてのブランド力向上を図る。
- ・次代の取組により道の駅自体のブランド化を図る。

産業団地優先地区位置図

